

令和2年度飯山市美術館運営協議会（第1回）

1 開 会

2 辞令交付

3 あいさつ
・教育長

4 自己紹介

5 協議事項

(1) 令和元年度事業報告について

(2) 令和2年度事業計画について

(3) 令和3年度以降の企画展等の予定について

(4) その他

6 その他

7 閉 会

○飯山市美術館運営協議会規則

平成9年3月21日教育委員会規則第3号

飯山市美術館運営協議会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、飯山市伝統産業会館条例(昭和57年飯山市条例第22号)第19条に定める飯山市美術館運営協議会(以下「協議会」という。)の委員の定数、任期その他必要な事項を定めるものとする。

(定数)

第2条 協議会の委員の定数は、12人以内とする。

(任命)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識者から教育委員会が委嘱し、又は任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第5条 協議会に会長を置き、委員が互選する。

2 会長が会務を総理する。

3 会長が事故あるときは、あらかじめ会長が指名した委員がその職務を代理する。

(協議会)

第6条 協議会は、美術館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、教育委員会に対し意見を述べることができる。

(会議)

第7条 協議会は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(補則)

第8条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成18年2月20日教委規則第1号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月24日教委規則第2号)

この規則は、公布の日から施行する。ただし、第1条の改正規定は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月31日教委規則第4号)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

令和2年度飯山市美術館運営協議会委員名簿

美術館運営協議会委員（敬称略）

	氏 名	備考（推薦団体等）
1	吉越 隆師	飯山市芸術文化協会
2	千坂 経悦	飯山市高校美術科担当者
3	上海 一徳	飯山仏壇事業協同組合
4	西澤 直樹	校長会
5	廣 靖彦	有識者
6	森崎 鉄兵	社会教育委員
7	阿部 拓也	内山紙協同組合
8	丸山 公人	飯山市芸術文化協会

教育委員会関係者

1	教育長	長瀬 哲
2	文化振興部長（兼）文化交流課長（兼）美術館長	桑原 雅幸
4	課長補佐（兼）美術館係長	井端 伸介
5	臨時職員	木村 友子
6	臨時職員	小林 隆子

令和1度事業報告

	事業名	内容・効果等	期間・会場等	入館者数等
常設展示	常設展示(前期)	飯山市出身あるいはゆかりの芸術家で、これまで企画展を開催した画家の作品を中心に展示。美術館収蔵品60～70点を展示した。	H31.4.1～ R1.8.25	入場者数:1,834人
	常設展示(展示替え調整)		R1.11.14～11.19	入場者数:174人
	常設展示(後期) ※資料P1参照		R1.12.12～ R2.3.31(予定)	入場者数:555人
ギャラリー展	こぶしの会 30周年記念展 ※資料P1参照	公民館で活動している社会教育団体こぶしの会のグループ展。会員7名が制作した風景や静物を描いた日本画28点を展示。 市民芸術祭と同様に出品者の関係者が来館されることから、美術館を身近に感じていただく機会として効果があったと思われる。	H31.4.17～ R1.5.6 開館日数:18日 会場:ロビー及び2階ギャラリー	入場者数:374人
	第1回 飯山仏壇体験フェスタ ※資料P1参照	飯山市伝統後工芸士4人による「飯山仏壇の匠の技に挑戦してみよう!」を開催。(体験内容:蒔絵、彫金、彫刻)	H31.7.6～7.6 開館日数:2日 会場:ロビー	二日間の入場者数:130人 体験参加者数:24名
	小橋城 鍋倉の森 展 ※資料P2参照	スキー写真家・小橋城氏(東京出身千葉県在住)が鍋倉山に5年間50回余り通い続けて撮影した写真32点を展示。 期間中、小橋氏等によるギャラリートークを2回開催。2/2は32名、2/11は28名が参加した。	R2.1.8～3.4 開館日数:50日 会場:ロビー及び2階ギャラリー	入場者数:547人
企画展	木原正徳展 ひとかたち《野に還る》 ※資料P3参照	太田大深出身の画家で東北芸術工科大学副学長・教授の木原正徳氏の個展を開催。 最近10年間の二紀展出品作品を中心に、人や動植物の形態を鮮やかな色彩で描き出した大作など約60点を展示し、木原芸術を堪能できる機会とした。 最終日(11/4)、作家によるギャラリートークを開催し、約20名が参加した。また、期間中、学びのエリア館秋まつり(10/5・6)の催しとして、木原正徳展の作品を見て答える「クイズ・答えは作品の中」を実施。	R1.9.1～11.4 開館日数:54日 展示室・ロビー・2階ギャラリーの全室	入場者数:2,242人 ※学びのエリア館秋まつり2日間の無料入館者数(約816人)を含む
	長野県信濃美術館移動展「旅行者たちの記録」 ※資料P4参照	信濃美術館が県内の施設を会場として開催している移動展を開催。草間彌生や池田満寿夫の作品など、世界的に知名度のある作家の作品等約40点が展示された。飯山市名誉市民の長谷川青澄の信濃美術館所蔵の代表作も併せて鑑賞できる機会となった。	R1.11.23～12.8 開館日数:14日 展示室	入場者数:254人

令和1度事業報告

	事業名	内容・効果等	期間・会場等	入館者数等
美術教室等	ワークショップ うちわ作り 「押して！貼って！うちわ」	郷土の和紙や土を使った造形教室を開催。 身近な石や野菜に土から作った絵具を塗り、和紙にスタンプする技法で絵画制作を行った。 (公民館夏休み体験教室)	R1.7.31 会場：公民館103	参加者数：14名
	【中止】新型コロナウイルスの感染拡大防止のため ワークショップ ランプシェード作り 「マイランプシェードを作ろう！」	【中止】 郷土の伝統工芸である内山紙を使ったオリジナルのランプシェードを作る。 (公民館春休み体験教室)	【中止】 R2.3.26 会場：公民館103	【中止】 参加者数：15名(申し込み人数)
寄贈申出受入	河野文夫作品37点	河野文夫のご遺族(河野美恵子氏)から河野文夫の油彩画等37点を寄贈していただいた。	寄付採納審査委員会 R1.5.13承認	
	佐藤武造作品等16点	佐藤武造のご遺族(佐藤昭氏)から佐藤武造の漆絵や水彩画、スケッチブックなど16点を寄贈していただいた。	寄付採納審査委員会 R1.6.27承認	
	仏像2点	松田峯琳氏(松本市在住)から同氏が制作した木彫による千手観音立像と聖観音立像を寄贈していただいた。	寄付採納審査委員会 R1.12.3承認	

令和2年度 飯山市美術館事業計画

1 常設展示

内容： 飯山市出身あるいはゆかりの美術家及び企画展を開催した美術家の作品を中心に常設展示を行う。美術館収蔵品及び借用作品を合わせて60～70点を展示する。

期間： 例年、常設展で展示する作品は企画展の前後で入れ替えていたが、今年度は企画展が延期となったため、展示替えを行うか否かは、今後、新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮した飯山市の方針等により判断することとしたい。

2 企画展開催事業

名称： (仮称) 正受老人三百年遠諱記念特別展 ※資料P7参照

会期： 新型コロナウイルス感染防止のため、令和3年度に延期する。

※当初の予定：令和2年9月19日(土)～令和2年11月3日(火・祝)

【延期の理由】

・理事者会議(4/23)において、新型コロナウイルス感染防止のため、来年度へ延期する方針が出された。

内容： 正受老人及び正受庵にゆかりのある遺墨などを借用展示し、白隠禅師を正しい悟りに導いた正受老人を内外に紹介する。展示資料は主に正受庵所蔵の寺宝を借用する。

3 ギャラリー展等

方針： 市出身やゆかりの有無にこだわらず、市外の作家も積極的に紹介し、施設の有効活用・活性化を図る。

(1) 『(仮称) 河野文夫寄展』 ※資料P6参照

期間： 新型コロナウイルス感染防止のため、冬季(H3年2～3月)に延期する。

※当初の予定：7月～8月

※新型コロナウイルス感染拡大状況により適宜判断することが必要。

会場： 2階ギャラリー及びロビー

内容： 平成15年に市美術館において企画展を開催した河野文夫(1908～1991、佐賀県出身)は戦後の飯山の美術振興に大きく貢献した教育者である。

ご遺族(河野美恵子氏)から令和1年5月に河野文夫作品37点(油彩画)の寄贈を受けたことから寄贈作品を披露する機会としたい。

(2) 『(仮称) 飯山仏壇ゆかりの仏師たち』 ※資料P8参照

内容： 飯山仏壇にゆかりのある仏師をテーマとした展示。

名称： (仮称) 飯山仏壇ゆかりの仏師たち

期間： 新型コロナウイルス感染防止のため、令和3年度に延期する。

※当初の予定：令和2年9月19日(土)～令和2年11月3日(火・祝)

※(仮称) 正受老人三百年遠諱記念特別展と同時開催する。

会場： 2階ギャラリー

内容： 滝澤天友(1871～1909)の木彫2点を展示する他、飯山仏壇に関わった仏師・彫刻家の作品あるいは、旧駅前仁王門について紹介する。

(3) その他（検討中）

①飯山仏壇体験フェスタ「飯山仏壇の匠の技に挑戦してみよう！」

昨年（7/6）、美術館ロビーにおいて開催していただいた。伝統産業会館で行うイベントとしてふさわしい内容であることから、今年度も同様に開催できるのであれば、美術館のギャラリー展と同様に協力したいと考えている。

備考：新型コロナウイルス感染防止のため、延期または中止する可能性がある。

②登録社会教育認定団体による作品発表展等

登録社会教育団体から利用希望があれば、随時、検討を行う。

4 ワークショップ・美術教室等

方針： 特徴ある美術館づくりを目指して、郷土の伝統工芸である“和紙”と地元の土から作った絵の具を使った絵画制作等のワークショップを継続して取り組む。また、美術家等に協力を仰ぎ、美術を身近に感じ楽しむためのギャラリートークやワークショップを実施する。

○夏休み・春休み体験教室の美術・図工の講座を担当実施

市公民館主催の小中学生を対象とした夏休み・春休み体験教室において、美術・図工関連の企画立案と運営に関わる予定。

実施内容については、今後、検討していく。

備考：新型コロナウイルス感染防止のため、中止する可能性がある。

5 五郷研修館の活用・県外在住作家との連携

方針： 県外在住の芸術家と連携し、美術館活動の活性化に繋げる。

現状： 県外在住の芸術家4名が不定期に五郷研修館を使用している。現在、活発に制作活動が行われている状況ではないが、小中学校等に相談して美術家による特別授業などの開催を検討することとしたい。

報告：前回の運営協議会（2/27）において、研修館を利用している作家による特別授業を市内の小中学校で開催したらどうかという提案が出ていたことから、瀬島匠氏（日本大学芸術学部教授）に打診した。

瀬島氏からは、「是非とも協力したい」との返答をいただいたので、今後、新型コロナウイルス感染の収束を待って美術館及び学校関係者と相談することとしたい。

○研修館を使用している美術家：

原田卓三（大阪府在住、東京芸術大学大学院修了）、瀬島 匠（東京都在住、武蔵野美術大学卒、日本大学芸術学部教授）、内田 寛（愛知県在住、名古屋芸術大学卒）、星晃（埼玉県生まれ、武蔵野美術大学造形学部日本画学科卒）

6 管理運営関係

○防犯カメラ設置事業

美術館展示室・ロビー・2階ギャラリーに合計8台の防犯カメラを設置する。受付カウンターにモニター1台と一定期間、画像を録画できるレコーダーを設置する。

令和3年度以降の企画展等開催内容について

令和3年度 (2021)	①「正受老人三百年遠 諱記念特別展」及び ②「飯山仏壇ゆかりの 仏師をテーマとした 展示」	①展示内容は関係者と相談のうえ決定することになるが、正受庵所蔵の寺宝や正受庵に関わる資料を市内の施設や個人から借用展示する。 ②滝澤天友(1852～1943)の木彫作品の展示や飯山仏壇ゆかりの仏師の業績を紹介する。
	(内定) 和紙作家・森田千晶展	・飯山市で開催された「和紙の仕事大賞コンペティション」において大賞(H18)と優秀賞(H17)を受賞した和紙作家・森田千晶氏の作品展を開催予定。本人承諾済み。
令和4年度 (2022)	(候補) 佐藤武造展没後50年 記念展	・瑞穂出身の画家・佐藤武造の没後50年にあたる年であるため、市民からも開催を希望する要望が寄せられていることから、是非とも開催を検討する必要がある。
令和5年度 (2023)	(候補) 岩上隆静没後10年記 念展	・秋津地区出身の画家・岩上隆静(1930～2013)は北信濃の風景を精力的に描いた。 ・平成14年に企画展を開催。

令和6(2024)	長谷川青澄青澄没後20年
令和7(2025)	
令和8(2026)	小林起一没後20年